

第36回ビジネス日本語研究会
テーマ: 留学生の日本就職の現在

趣旨説明

どこが変わった？ 留学生の就職

2024.2.24

堀井恵子

武蔵野大学名誉教授



日本社会の課題

コロナ禍は一応収まったが、

- ・多文化共生社会の実現
- ・労働力不足

留学生受け入れ40万人計画(2023.4) 2033年までに
技能実習制度の廃止⇒育成就労制度決定(2024.2.9)

* 熟練労働者として受け入れた外国人を3年間で一定の技能が必要な「特定技能1号」の水準に育成する制度



日本語教育界の現状

- 日本語教育の質の向上
 - ⇒ 2024.4「日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律」(認定法)施行
 - ⇒ 日本語教育機関の認定、登録日本語教師
 - ⇒ 就労者に対する日本語教師の不足
(就活支援/就労支援)

* 日本語能力の判定 JLPTvsCEFR

就職に関する 留学生の多様化

1. 大学の留学生、日本語学校の留学生
 - * 日本語学校からの就職志望の増加
 2. 英語で学位をとる留学生
 3. 理系/文系
 4. 大手志望/中小志望
 5. 勤務地 都市志望/地方志望
- その他

プログラム

13:15～15:15

基調講演:留学生の日本就職の現在(仮)

講師 眞住優助(金沢大学 国際基幹教育院 准教授)

事例報告、ディスカッション

司会 栗原由加

(ビジネス日本語研究会副代表幹事・神戸学院大学 教授)

報告

渡辺若菜

(立命館アジア太平洋大学 言語教育センター 特任講師)

多田苗美

(昭和女子大学 国際交流センター 非常勤講師)

丸山友子(コミュニカ学院 教務主任)

15:30～16:45 研究発表

テーマ:外国人材の活躍の支援と教育

16:45～17:00 まとめ、諸報告

研究発表

司会:多田奈美

・第一発表 國井久美子(フリーランス)・滑川恭平((株)ウイルテック)・北内直子(TIJ東京日本語研修所)・内田さつき(コミュニカ学院)

「日本語教育機関が研修に際して企業との接点を見つけるためのヒアリング項目の開発:両者が課題を共有するために」

・第二発表 黒田史彦(東京都立大学)

「外国人材と共生できる職場づくりワークショップ:パターン・ランゲージを活用した取り組み」

・第三発表 品田潤子(BPC研修サービス)・栗又由利子(きぼう国際外語学院)

「就労日本語教育におけるアーティキュレーションの構築に向けて:技能実習生の来日前・入国時・配属後の日本語教育連携に見る課題」

ポストコロナの今、留学生の就職/就活のどこか変わっているのか、それはこれからの日本社会にどのように連動するのか

今日のようなお話からそれぞれの現場とつなげてなんらかの更新をしましょう